

相模経済新聞

THE SAGAMI KEIZAI

ブルー・スターR&D

バリ洗浄装置が優秀賞

受注数増加で生産強化

ブルー・スターR&D
(相模原市中央区横山台)の超音波バリ取り洗浄装置が、第27回中小企業優秀新技術・新製品賞で「優秀賞」に選ばれた。受賞後の受注数が増加し、市内企業との連携も検討している。

同装置は、超音波で汚れを除去する超音波洗浄装置を発展させたもの。水中で強力な超音波を発生させ、直径約6ミリの球状キャビティ(真空の泡)でバリを除去。微小なバリの除去時間が短縮され、人件費の削減にも貢献している。

バリは、金属やプラスチックなどの加工後に残る不要な突起など。手作業で取り除くことも多く、人件費の安い海外に移転する原因の一つになっていた。

主な取引先は、自動車部品や電化製品などの製造業。スマートホン(多機能携帯端末)の普及で、中国や韓国など海外の需要も伸びている。

主力製品の「PERION(ペリオン)ーDB」は、月間販売台数が3万台だったが、受賞後は5万台に増加。全自動型の「V

EGA(ヘガ)ーDB」も年間10台以上の生産を見越している。

同社は増産に対応するため、相模原市内の金属加工業者との提携を進めている。また、相模原市および周辺自治体に立地する工場の取得、製造業

との生産提携なども検討しているという。

同社がエントリーした「一般部門」では、279件の応募があり、37件が受賞。そのうち13件が優秀賞に選ばれた。

審査のポイントは「優秀性」「獨創性」「市場性」の3つの観点の基本。「中小企業らしさ」「環境に対する配慮」「社会的有用性」といった多様な観点も考慮したという。

柴野佳英会長は「科学専門誌の『サイエンス』『ネイチャー』への掲載を目指す」と意気込む。

「バリ取りが自動化できたことで、人件費で海外に負けなくなった。中小企業に競争力を提供したい」と話していた。

(芹澤 康成)



優秀賞の盾を手にする柴野会長